

学生主体型青年国際シンポジウムの実施と評価

古内綾子

拓殖大学留学生別科

高木裕子

実践女子大学人間社会学部

佐藤綾

大邱韓医大学校外国語学部

神谷慶美

実践女子大学人間社会学部

宮林千尋

実践女子大学人間社会学部

1 はじめに

平成20年9月10日から20日までの11日間にわたり『青年国際シンポジウム&フィールドスタディー in Japan, 2008 (以下、「青年国際シンポジウム」と称す)』が東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催された。青年国際シンポジウムは、実践女子大学人間社会学部教授高木裕子が顧問を務める『実践女子大学日本語教育研究会』が企画・運営を担当し、国内外の高等教育機関で学ぶ日本語学習者を広く招聘して行われた青年国際交流事業である。

海外の日本語学習者を日本国内に招聘し、短期の日本語研修や日本文化研修を実施する事業は多くの機関で実施されているものではあるが、本事業の特徴として、第一には、プログラムの企画から運営、さらに評価に関わる一切を学生が主体となって実施したことがある。第二には「日本人大学生」「海外の日本語学習者」「国内の日本語学習者」と3つの異なる属性に所属する学生が学習を共にしたことがある。

本報告書では、青年国際シンポジウムの詳細を記すとともに、参加者からの評価をまとめ今後の国際交流事業について検討する。

2 青年国際シンポジウム実施の経緯とその目的

実践女子大学日本語教育研究会は、2006年に発足し、日本語教師としての短期派遣や日本語教師になるための海外教育実習の企画・実施を通じて、国内のみならず海外でも活動し、多くの日

本語学習者との交流を行ってきた。3年目を迎える2008年度は、これまで係りがあった海外高等教育機関¹からそこで日本語を学んでいる学生を招聘し日本で国際交流事業を実施したいと考え青年国際シンポジウムを企画した。

本事業の目的には、各国の高等教育機関で学ぶ学生たちの国際的な視野を広め、国際社会で生きていくための能力や資質を育成することとこのような事業を日本人学生が主体となって企画・運営・評価することで、日本人学生の事業企画力や運営力も同時に育成することの2つを掲げた。

以上の2つの目的の下、本事業には、「日本人学生」「海外の日本語学習者」「国内の日本語学習者」（以下、「海外の日本語学習者」「国内の日本語学習者」をまとめて、海外出身の学生という意味で、「海外学生」とする。）の3つの属性を持つ学生を招聘し、それらの学生がお互い異なる社会文化と接しながら共に同じ課題に取り組み、また問題解決をめぐる意見交換をする活動を企画した。

3 青年国際シンポジウムの内容及び特徴

上述したように、本事業は2つの目的があるため、事業自体にも2つの側面がある。一つは「循環型青年国際事業」としての側面であり、もう一つは「体験型青年国際事業」としての側面である。

3-1 循環型青年国際交流事業

本事業は、実践女子大学日本語教育研究会に所属する学生が企画・立案・運営・実施、そして、事業評価までを行うものである。

学生の事業企画力や運営力を総合的に育成するためには、当日の運営をし、日本語の授業だけ、文化体験だけなど部分的な活動に参加するだけでは不十分であり、企画・事前準備・海外教育機関との交渉・運営・評価という事業全体を体験することが必要であろうと考える。このように総合的に事業に係ることにより、学生は全体的かつ客観的に事業をとらえ運営する能力が育ち、さらにはその反省と経験から新しい事業を企画する能力が育成されと考えられる。そして、新しい事業を企画した段階では、本事業で身につけた能力を活かしながらよりよい活動を行うことができるだろう。本事業はそのような日本人学生の成長を目指し行われるものであり、このような意味から、非連続的な事業ではなく連続性のある「循環型」の青年交流事業であると言える。

3-2 体験型青年国際交流事業

本事業では日本語の授業をはじめ、日本文化に関わる体験型の授業（マンガ、ポップカルチャー、茶道、作法など）を実施した。また、日本人学生と海外学生が共同で行うプロジェクトワーク、

¹ 2008年度は大韓民国の大邱韓医科大学、中国人民共和国の東南大学、モンゴル共和国の新モンゴル高校から推薦された学生を招聘して実施した。

① 社会科見学

現在の東京を実際に見られる機会として社会科見学を企画した。社会科見学は、午前と午後
の2部構成とし、午前は、海外学生の希望が多かった東京大学の見学を行い、午後は「新宿エ
リア」「浅草エリア」「国会議事堂エリア」の3つから学生の自由選択でグループごとの見学を
行った。

② 山形ホームステイ

9月12日～14日の2泊3日で山形県山形市へのホームステイを行った。ホームステイは、
日本人家庭での生活を通して、日本文化を体験することと日本語での会話能力の向上を目指す
こと、また、東京以外の都市を見て、日本の中にある異なる都市と文化を知ることがを目的に企
画した。

山形市でのホームステイ受け入れは、山形市のホームステイ受け入れボランティア団体に委
託した。

③ 日本語授業

9月15日の午前と午後、16日の午前中は日本語の授業を行った。日本語授業のスケジュー
ルは表1の通りである。

表1 日本語授業時間割

	15日(午前)				15日(午後)			16日(午前)				
9:00 ～ 9:50	トピック「温泉」 Aクラス Bクラス			13:00 ～ 13:50	トピック「結婚」 Aクラス Bクラス			トピック「ECO」 Aクラス Bクラス				
10:00 ～ 10:50	トピック「温泉」 Aクラス Bクラス			14:00 ～ 14:50	トピック「結婚」 Aクラス Bクラス			トピック「ECO」 Aクラス Bクラス				
	選択授業						選択授業					
11:00 ～ 11:50	作文	アニメ	ポップ カルチャー					作文	アニメ	ポップ カルチャー		

前半は、授業ごとにトピックを設定し、それに関連する内容で学習を進めた。授業のトピッ
ク設定や授業の構成などはすべて日本人学生の手によるものである。また、後半は、作文を必
修授業とし、そのほかの2つを選択授業として毎日異なる授業を選択できるようにした。作文
の授業では、4コマ漫画のストーリーを作文に書き表すなどの活動を行い、アニメの授業では、
アニメーションのアフレコや4コマ漫画作成を、ポップカルチャーの授業では、日本のアイド
ルに焦点を当て、アイドルの歴史や最近のアイドルの歌を歌うなどの活動を行った。

④ プロジェクトワーク

9月11、15、16、18日の午後にプロジェクトワークを実施した。日本人学生と海外学生の混

合グループを3つ作り、それぞれ「交通」「食事」「服装」のテーマの元、プロジェクトワークに取り組んだ。「交通」のグループは実際に地下鉄の駅構内を調べ、「食事」のグループは日本人へのアンケート調査を行い、「服装」のグループは着付けの先生へのインタビューを行うなど、日本にいるからこそ可能な方法を用いた調査を行った。調べた結果は、Power Point とレポートにまとめ最終日の国際シンポジウムで発表した。

⑤ 国際シンポジウム

青年国際シンポジウムの最終日に「国際シンポジウム」と称したイベントを行った。午前と午後の2部構成で、午前はプロジェクトワークの調査報告を行った。午後は、「共に生きる」ということを大きなテーマとし、その下位テーマとして「国際結婚」と「外国人労働者の増加」を設定しそれぞれディベートとディスカッションを行った。

11日間という短い期間ではあったものの、本事業の特徴である体験型の学習が実現できるように上記のような活動を企画し、運営した。

次に、本事業への評価を述べたい。評価は、本事業へ参加した日本人学生及び海外学生によるものである。

5 事業評価

青年国際シンポジウム終了後に、本事業の評価に関わるアンケート²を日本人学生と海外学生の双方に実施した。アンケートは、本事業に参加したことによって自身がどのように変わったかについての20の項目について「1：まったく感じなかった」「2：あまり感じなかった」「3：どちらともいえない」「4：少し感じた」「5：非常に感じた」の5段階で評価するものと、本事業の「全体」「日本語の授業」「プロジェクトワーク」「シンポジウム³」についての自由回答による評価である。

5-1 日本人学生による評価

本事業に参加した日本人学生23名中、アンケート回答者は、16名であった。

(1) 事業参加後の自己に対する評価について

本事業に参加したことによって自身がどのように変わったかについて答える20項目の質問のうち、平均点が4以上であった項目は、「自主性が高まった」「自立性が高まった」「視野が広がった」の3項目である。逆に、平均点が2未満の項目はなかった。このことから、日本人学生は、本事業に参加し、自身の自主性、自立性が成長し、視野が広がったと感じており、全ての学生

² アンケートは巻末資料2を参照のこと。巻末資料2は日本人学生へのアンケート用紙であるが、海外学生に実施したアンケートもほぼ同じものである。

³ 「シンポジウム」は最終日に行われた国際シンポジウムを指す。

に何らかのプラスの影響があったと考えられる。

また、自由記述のアンケートには、「自分自身の精神的な成長があった」など自分自身の成長が見られたという答えや「日本人としての意識が高まった」「国際交流・異文化に対する意識が変化した」など、異文化理解、異文化交流に対する考えに変化があったという答えも見られた。さらに、「日本語教育に関する能力の向上」「企画・運営能力の向上」など、各種能力の向上も感じており、これらの能力を「異文化や国際交流の場」「社会人になってから」「日常生活」などで生かしたいと考えている学生も多い。積極的に学ぶ海外学生の様子に感化され、自身のこれからの学習への姿勢を見直したいという意識も芽生えているようである。

(2) 本事業に対する評価

本事業に対する評価をまとめると以下の表2のようになる。

表2 日本人学生による事業評価

	全体	日本語の授業	プロジェクト	シンポジウム
5段階評価 ⁴	良い	良い	良い	良い
理由	<ul style="list-style-type: none"> 多様な活動が取り入れられている点 複数の国の学生の参加 授業内容の工夫 海外学生のいい勉強の機会になった 自分自身の成長、経験につながった 	<ul style="list-style-type: none"> シラバス・指導の仕方の工夫 自分自身の成長 海外学生の反応が良かったこと もっと外に出てもいいのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> 学生主体で活動できたこと 実際のものを見ながら調査できたこと 	<ul style="list-style-type: none"> 海外学生にとって、総合的な学習となり良かった 自分自身、外国の学生と意見交換ができて充実していた
楽しかったこと	<ul style="list-style-type: none"> 海外学生とのコミュニケーション 日本語授業「温泉」の発表 シンポジウム プロジェクトワーク 礼儀作法 	<ul style="list-style-type: none"> 海外学生の授業中の反応が良かったこと 海外学生と交流を持てたこと 授業自体 	<ul style="list-style-type: none"> 海外学生の反応 海外学生と日本人学生と一緒に活動できたこと 実際のものを見ての調査 	/
大変だったこと	<ul style="list-style-type: none"> 日本語授業やプロジェクトワークの実施 海外学生との交流 事業運営 学習者を意識したプログラム企画 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の作り方 授業中の海外学生への対応の仕方 時間的な管理 海外学生のレベルなどをつかむこと 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの進行 時間の管理 プロジェクトワーク全体をまとめる力 外的な要因 	/
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 運営の仕方を改善する。特に連絡方法の改善 プログラム内容を改善する 参加人数、国を増やす、バランスの調整 日本人学生側の意識を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間の工夫 授業内容の工夫（日本人とのコミュニケーションを増やす） 日本語教育学習の必要性 事前に学習者の様子を把握できるようにしたい 	<ul style="list-style-type: none"> 時間に余裕を 各グループに自由に取組んでもらった方がいい。 日本人側の関わり方を先に確認すること 	/

⁴ 「プログラム全体」「日本語の授業」「プロジェクトワーク」「シンポジウム」について「大変良い」「良い」「普通」「良くない」「全く良くない」の5段階で評価した結果である。

さらに、本事業が学生主体であったことに対してのアンケート結果は以下の通りである。

表3 日本人学生による本事業が学生主体であることへの評価

良かった点	良くなかった点
<ul style="list-style-type: none"> ・学生自身の内面的な成長 自主性、主体性、計画性、自信につながった ・学生視点のプログラムを企画できたこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の学生によって運営や進行が行われ、仕事の負担が多くなっていったところ ・運営に関して、連絡ミスが多かったこと ・海外学生とゆっくり交流する時間が取れなかったところ

日本人学生は、本事業に対して16人中14名が良い評価を表している。その他、「日本語の授業」「プロジェクトワーク」「シンポジウム」に対しても良い評価をしている。その理由としては、「自分自身の成長につながった」ことや「海外学生にとって良い機会になったこと」「活動に工夫がみられたこと」などが挙げられている。そして、「楽しかったこと」という項目に、海外学生とコミュニケーションをとりながら行った活動に関する記述が多くみられ、日本人学生にとっても海外学生との交流が有意義なものであったことが伺える。一方、時間的な管理や、プログラムの内容・運営・実施などについては大変な面もあったようであり、特に時間の問題については改善すべき点であるという回答が多かった。また、他にも「事前に日本語教育についてより深く学ぶことの必要性」や「日本人側の意識を改めること、知識を増やすこと」などの改善点も挙げられている。

さらに、本事業が学生主体であったことに対しては、「学生の成長につながった」という良い評価がある一方、仕事量の偏りがあったことや、日本人学生が海外学生と交流する時間を持てなかったという反省点が挙げられている。

5-2 海外学生による評価

本事業に参加した海外学生15名中13名から回答をえた。

(1) 事業参加後の自己に対する評価について

本事業に参加したことによって自身がどのように変わったかについて答える20項目の質問のうち、平均点が4以上であった項目は、「積極的になった」「自分を出すようになった」「日本社会の多様性に気づいた」「国際交流に積極的になった」「人前でも話ができるようになった」「視野が広がった」「自国人としての意識が強くなった」の7項目である。平均点が2未満の項目はなかった。

以上のことから、海外学生は、人前で自分を出せるようになり積極性が増すなど、自身の精神面での成長があったと考えているようだ。さらに視野が広がったこと、日本社会の中にも様々な側面があるということを知ったと答えていることから、異文化への理解力が増したと考えられる。また、自国人としての意識が高まったことから、自身の属する文化への意識も強まったのではないかと考えられる。

このように海外学生は、日本人学生と比べて、自身の精神的な成長だけではなく、国際交流、

異文化理解に関わる要素に変化があったことがうかがえる。

また、自由記述のアンケートにも、このプログラムに参加して日本や日本人に対する理解が深まり、視野が広がった、自信がついたなどの回答があり、自身に精神的な成長があったと感じていることがわかる。他にも、会話力については自信がついたようである。また、複数の国の学生との交流経験によって、国際交流への意識が強くなり、また、この経験が自分自身の日本語力を省みる機会となったようである。

そして、日本人学生との違いとして、海外学生はプログラムの長期化を望む声が多かった。

(2) 本事業に対する評価

本事業に対する評価をまとめると以下の表4のようになる。

表4 海外学生による事業評価

	全体	日本語の授業	プロジェクト	シンポジウム
5段階評価	良い	良い	良い	良い
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段なかなか交流が持てない他の国の学生と交流できたこと ・ 日本人の学生がプログラムに積極的に取り組んでいたこと ・ 様々な活動ができたこと ・ 自分の中で成長があった。視野が広がった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマが面白かった ・ 楽しい雰囲気 ・ 教師が一生懸命取り組んでいること ・ 授業の形式（スピーチ、クイズゲームなど）がおもしろかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な国の人と協力して取り組めたこと ・ 自分の興味があることや、日本の文化について調べられたこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の国の人と意見を交換できた体験 ・ 日本語能力が高まった ・ テーマがおもしろかった
楽しかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業 ・ 観光 ・ 国と国の違う点などに気づいたこと ・ プロジェクトワーク ・ ホームステイ ・ ディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の内容がおもしろかった ・ 授業内の活動の多様性（ロールプレイを取り入れる、何か作る） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に見たりインタビューしたり、調査をしたこと ・ プロジェクトワークのやり方 ・ みんなで協力して取り組んだこと 	/
大変だったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ ない ・ ディベート ・ スケジュールが忙しすぎる ・ プロジェクトワーク ・ 現地調査を行ったこと ・ 日本語がちょっと下手なので、より深い考えをはっきり表わしにくい ・ パワーポイント作成 ・ 茶道 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ない ・ 言葉 ・ 時間が詰まりすぎ ・ 手作業 ・ 作文 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特にない ・ 調査したり、レポートにまとめたりすること ・ 時間が短いこと 	/
改善案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間が長いほうが良い ・ 参加者の構成など ・ 準備について・・・事前学習に向けた情報公開、国別を活かした授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の大学の教授にも日本語で授業をしてほしい ・ 学生だけではなく教師間の交流もしたほうが良い ・ 社会問題をもっと深く学びたい ・ 日本の方言を学びたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマを具体的に ・ 余裕のあるスケジュールにする ・ グループのリーダーがもっとそれぞれの意見を集中したほうが良い 	

海外学生の評価を見ると、「普段交流できない学生と交流できたこと」に対する良い評価がみられ、まだ「授業のテーマが良い」「授業の形式が新しくおもしろかった」「シンポジウムのテーマがおもしろかった」「日本人の学生が積極的に取り組んでいた」など、日本人学生が企画した活動の内容や方法に対する評価は高く学生主体のこのプログラムを好意的に評価していることがうかがえる。一方で、日本人学生と同様、それぞれの活動に割かれる時間にゆとりを持つことや、参加メンバーの構成などは改善すべきであることとしている。また、日本人教師による授業の実施を求める声もみられた。

6 今後の事業に向けて

2008年度の青年国際シンポジウムを省みると、日本人学生、海外学生双方からは概ね良い評価を得ている。11日という短い期間ではあるが、複数の国の学生が一堂に会し寝食を共にし、交流を重ねた経験は、双方の学生にとって何らかの影響を与えていた。

また、学生主体の事業であったため、日本人学生は運営能力や企画能力に対する自信がついたように見受けられる。また、自分たち自身で企画したプログラムの構成に対する反省点、改善点が多く挙げられており、自分たちの活動を客観的に省みる姿勢も育成されているのではないかと考えられる。このような視点は、今後事業を展開していく上で重要な視点である。そして、今年度は、事業運営に力を入れていたが故に、日本人学生は海外学生との自由な交流を図る余裕を持たないという反省点が目立った。これについては今後確実に改善していくべきことである。

循環型の事業という点でいうと、本事業後に新たな日本語教育実習の機会が生まれ、本事業の反省点が活かされた活動が行われていることから、「循環」という事業の特徴が活かされ始めている様子が見られる。また、この時の交流がきっかけで、日本人学生と海外学生同士の個人的な交流が生まれ、さらに、国際交流活動への興味を強くした日本人学生も現われ、個々人でも、より活発で国際的な活動が始まっている。このように本事業の「循環型」という側面は徐々に効果を表わしている。今後もここでの経験や能力が他の国際交流事業でも活かされることを望むものである。

最後に、コーディネーターとして本事業を省みた時に、より学生同士の交流を促進させるためには、事前の学生同士の交流や、海外学生からも事業の企画段階で意見をもらうことも一つの方法ではないかと考える。そのようにすることにより、より学生主体という本事業の特徴が強調され、学生同士の交流も促進されるのではないかと考える。また、今年度は、「日本人大学生」「海外の日本語学習者」「国内の日本語学習者」の3つの属性にある学生のバランスが整っておらず、それぞれの特徴を十分に生かすことができなかった。今後は、この3つの属性を持つ学生がいるという利点をより活用し、お互いの交流が促進できるよう図る必要があるだろう。そして、コーディネーターは日本語授業に向けた基礎的な日本語教育の学習支援や国内外の教育機関との事務的業務のスムーズ化、日本人学生の事業準備補助の改善などを行い、日本人学生、海外学生の能力を十分に活かし、伸ばしていくための支援が必要であると考えられる。

参考資料1 青年国際シンポジウム&フェイェルスタディ in Japan 2008 日程表

	朝食 8:00~9:00	午前 (9:00~11:50) 9:00~9:50 10:00~10:50 11:00~11:50	昼食 (12:00~13:00) 12:00~13:00	午後 (13:10~17:00) 13:10~17:00	夕食 (17:00~18:30) 17:00~18:30	夜 (19:00~21:00) 19:00~21:00
10日		各国から学生到着				オリエンテーション
11日		【社会科見学】 (東京大学など)		社会科見学 ①都庁方面 ②国会議事堂方面 ③浅草方面 以上の3つより選択		ホームステイ オリエンテーション ①プロジェクトワーク 説明
12日		ホームステイ 出発 東京8:00—仙台13:30(オリオンバス)				
13日				山形ホームステイ		
14日				山形ホームステイ		
15日		【日本語授業】【日本語授業】 クラスA クラスB	オリンピックセンター 内で 昼食	東京駅 18:00ごろ着 【日本語授業】 クラスA クラスB 【日本語授業】 クラスA クラスB	②プロジェクトワーク	プロジェクトワークグループごとの活動
16日		【日本語授業】【日本語授業】 クラスA クラスB		③プロジェクトワーク		プロジェクトワークグループごとの活動
17日						
自由行動						
18日		礼儀作法 (浴衣の着付け、お茶、和室での礼儀作法 など)		④プロジェクトワーク		プロジェクトワークグループごとの活動
19日		国際シンポジウム～第1部:プロジェクトワーク発表～		国際シンポジウム～第2部:ディスカッション～		
20日		各国から学生出発				

II, III, IVについては、ご自身が参加した部分についてのみお答えください。
V以降は、全員お答え下さい。

II. 日本語授業プログラムについて

7. どのような形で日本語授業のプログラムに参加しましたか。(複数回答可)
 a. 授業の実施 b. 授業のアシスタント c. 授業見学 d. 授業の計画・立案 e. 授業の準備
8. 日本語授業プログラムについてどう思いますか。当てはまるものに○をつけてください。
 大変良い 良い 普通 良くない 全く良くない

8-A. 「大変良い」「良い」と答えた方にお尋ねします。どのような点についてそう思いますか。

8-B. 「普通」と答えた方にお尋ねします。どのような点についてそう思いますか。

8-C. 「良くない」「全く良くない」と答えた方にお尋ねします。どのような点についてそう思いますか。

9. 日本語の授業の準備で、どのようなことが大変でしたか。

10. 日本語の授業で、どのようなことが楽しかったですか。

11. 日本語の授業の中で、どのようなことが大変でしたか。

例) 生徒とのやり取り、生徒の前立つこと

12. よりよい日本語の授業を学生に提供するために、提案があればお書きください。

13. 日本語の授業をすることによって、ご自身はどのようなことに気がつきましたか。

III. プロジェクトワークについて

14. どのような形でプロジェクトワークに参加しましたか。(複数回答可)
 a. 実施 b. アシスタント c. 見学 d. 計画・立案 e. 準備
15. プロジェクトワークについてどう思いますか。当てはまるものに○をつけてください。
 大変良い 良い 普通 良くない 全く良くない
- 15-A. 「大変良い」「良い」と答えた方にお尋ねします。どのような点についてそう思いますか。
- 15-B. 「普通」と答えた方にお尋ねします。どのような点についてそう思いますか。
- 15-C. 「良くない」「全く良くない」と答えた方にお尋ねします。どのような点についてそう思いますか。

16. プロジェクトワークの中で、どのようなことが楽しかったですか。

17. プロジェクトワークの中で、どのようなことが大変でしたか。

18. よりよいプロジェクトワークをするために、提案があれば、お書きください。

19. プロジェクトワークを担当することによって、ご自身はどのようなことに気がつきましたか。

IV. 19日のシンポジウムについて

20. シンポジウムについてどう思いますか。当てはまるものに○をつけてください。

大変良い 良い 普通 良くない 全く良くない

- 20-A. 「大変良い」「良い」と答えた方にお尋ねします。どのような点についてそう思いますか。
- 20-B. 「普通」と答えた方にお尋ねします。どのような点についてそう思いますか。
- 20-C. 「良くない」「全く良くない」と答えた方にお尋ねします。どのような点についてそう思いますか。
- V. ご自身について
21. このプログラムで、どのようなことを得られたと思いますか。
22. このプログラムに参加する前と、参加した後で何か変化したことはありますか。
あれば、お書きください。
23. このプログラムで得たことを、将来どのように役立てたいと思いますか。
24. 上記以外で、何かご意見、ご感想がありましたら、自由にお書きください。